

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	2274100391
法人名	社会福祉法人 静岡和洋福祉会
事業所名	グループホーム 浜屋
所在地 (電話番号)	静岡県駿河区中島 2566-6 054-286-2668
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年02月05日(火)

【情報提供票より】(19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 08 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.3 歳	最低 74 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	静岡済生会病院 (歯科を含む)
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体や管理者の並々ならぬ思い入れにより、開設されたホームのように思われる。古民家を思わせるゆとりのある施設、管理者・職員の認知症に対する思い、運営母体との連携による利点(モデルケース研究・実習現場等)が強く感じられる。「生活の場」を建物のハード面から考え、普通の和風住宅をコンセプトに設計されている。そのため、介護施設としては段差等のリスクは有るが、職員がいかに観察の意識を持ち、また自らも生活者の一人として、共に日々の生活を安全安心かつ楽しめるものにするか、ホーム全体で取り組んでいる。利用者の経時に伴うADLの変化も予想されるので、ヒヤリ・ハットの感性を磨き続けることが望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設以来、今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は理解しているが、今回の自己評価票作成に当たっては、管理者と主任だけの対応になっていた。自己評価票は、職員全員で分担し、項目の持つ意味等を議論しながら作成することが望まれる。課題の共有化や改善のスピードアップに繋がるものと思われる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は4~6ヶ月に1回開催され、包括職員・町内会長・民生委員・ご家族代表が参加し、ホームの現状報告・地域への協力依頼・運営に対する意見交換等を行い、サービス向上に生かす努力をしている。しかし、開催頻度の検討が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明示されており、家族等に開かれた状況にあり、寄せられた相談等にはこまめに対応し、ホームの運営に生かしている。隔月に浜屋新聞を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、必要時には電話にてこまめな状態報告をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会にも加入し、地域で行われる運動会・夏祭り・ドンド焼き・中島浜交流会等に参加し、地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	隣接する特養と同じ立派な理念、「当たり前の生活の提供と 寄り添う介護」を掲げ、日々努力している。しかし、地域密着型に相応しい、ホーム独自の理念作りは、これからである。	○	介護保険法が改正され、特養とグループホームの役割は、おのずから異なったものがあると思われる。ユニットケアの先を行くためにも、開設からのノウハウを生かし、ホーム独自の理念作りを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念は職員採用時によく説明し、会議等でも定期的に取り上げ、理念を生かした日々の介護の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる運動会・夏祭り・ドンド焼き・中島浜交流会等に参加し、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているが、今回の自己評価票作成に当たっては、管理者と主任だけの対応になっていた。	○	自己評価票は、職員全員で分担し、項目の持つ意味等を議論しながら作成することが望まれる。課題の共有化や改善のスピードアップに繋がるものと思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4～6ヶ月に1回開催され、包括職員・町内会長・民生委員・ご家族代表が参加し、ホームの現状報告・地域への協力依頼・運営に対しての意見交換等を行い、サービス向上に生かす努力をしている。しかし、開催頻度の検討が望まれる。	○	皆さん多忙の中での開催だが、ホーム側の発信に工夫を凝らし、益々地域密着型に相応しい会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村や包括支援センターとの連携は、運営推進会議以外常時は行われていない。	○	地域の他の福祉施設あるいはグループホームとの連携を強化し、共にサービスの質向上に取り組む働きかけが必要だと思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	隔月に浜屋新聞を発行し、利用者の暮らしぶりを伝えている。また、必要時には電話にてこまめな状態報告をし、金銭管理については毎月郵送にて報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明示されており、家族等に開かれた状況にあり、寄せられた相談等にはこまめに対応し、ホームの運営に生かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員や利用者の変動は無く、相互に馴染みながらの関係が定着されてきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回管理者が職員に対する個人面談を行い、必要な事項について指導を行っている。しかし、内部・外部の研修に付いて、職員のレベルに応じた研修計画は見られなかった。	○	職員のレベルに応じた研修計画の作成が必要だと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でのユニットリーダー会議・主任者会議による交流、訪問の機会はあるが、他法人の施設との交流は、殆ど行われていない。	○	地域包括支援センターにも協力もお願いし、地域の事業所間で交流・意見交換等の機会を設け、共にサービスの質向上に取り組むよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前にお試し入居制度を設けている。隣接しているデイサービスを利用している場合は、GHの職員が顔見知りになり、関係を築くよう考慮している。最初の入居9名から変更が無く、利用者は、徐々に馴染みながら利用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	学生寮のように「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係が出来ており、日常生活をお互いが協力し合いながら穏やかに且つ楽しそうに送っている。ありがとうの感謝の言葉も双方から聞かれた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。利用者に直接聞き取る場合や、分からない場合は家族にも相談し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聴き、関係者で検討し、介護にその思いや意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じ必要なケアを検討、提供しているが、ケアプランの見直しは、定期的には行われていなかった。	○	介護計画は家族の要望や変化に応じて話し合い、臨機応変に変更して行くと共に、安定している利用者の場合でも、3ヶ月に1回程度は、定期的に見直す取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の暮らしを守るために、外泊時に要請があれば家庭訪問をし、現状を把握して臨機応変に対応している。通常の個室や共用空間の他に、広い離れや応接間もあり、家族の為に宿泊室も整備されていた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を、継続して受診していただいている。かかりつけ医を持たない利用者に対しては、利用者、家族に納得して頂いた上で、ホームの提携医や看護師に適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方の文書化された指針はあるが、現在対象となる利用者がいない。状況の変化のたびに話し合いを繰り返し、検討を積み重ねようとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには、写真の公開等にも配慮がなされており、自立度の高い利用者が多いので、言葉かけや対応にも介入し過ぎずに利用者を見守る十分な配慮が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は決まりごとを作っていないので、時間を区切った過ごし方はしていない。利用者のそれぞれのお気に入りのスペースも十分に確保され、職員も希望にそっての支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを職員は把握し、提供時考慮をしている。調理、配膳、片付けは自発的に行ってくださる女性入居者様が多く、その日の食材によっては利用者からの発案で献立変更がなされるなど、職員の場面作りの工夫が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ全員が毎日入浴されている。夕方から夕食後の時間で、順番等はその日の希望や状況によって異なる。体調によっては清拭と着替えのみの配慮ある対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴やご本人の話から、得意なことや興味のあるもの等を把握し、楽しみにつながるような支援を心掛けている。食事やお菓子作り、畑での野菜作り、書道展への出品、手作り新聞への参加、家族も含めた小旅行、食事会等々利用者がそれぞれに楽しめる事や、役割を見つけて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行っている。買い物等も同行したい希望の方が多いので、なるべく機会を多くし出掛けられるよう心掛けている。近隣からの入居者が多いので、馴染みの店や場所などへ出かけることも行い、月1度は地域の交流会にも参加出来るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は鍵は掛けていない。職員が少ない時間帯に不穏で頻りに外へ出て行こうとする方がいる場合、玄関を一時的に施錠していることが数回あったが、基本的にはそれぞれの利用者の気分や状態を把握した自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	マニュアルを作成し、年2回隣接する特養と合同で利用者、地域の方の参加をお願いして実施している。運営推進会議の際にも協力が得られるように働きかけをしている。非常食の備蓄も特養と共に準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに考慮した献立の作成、食事・水分摂取量のチェックを行い、必要に応じて個々への支援をしているが、定期的に専門的な立場からのカロリーやバランスのチェックは行われていなかった。	○	これからは栄養ケアマネジメントが大切になります、定期的に管理栄養士によるチェックをご検討願いたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	互いの生活の音が聞こえる環境で、不快な音や光はないよう配慮し、室温にも注意している。ゆとりある造りから利用者が個々に過ごせるコーナーがあり、そこにはお気に入りの椅子が置かれていたりする。室内を飾り立てることはあまりせず、お花を飾ることや開放的な環境から眺める景色の変化等で季節を感じていただいている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には慣れ親しんだものを持って来て戴けるように説明している。本人の持ち物が少ない場合や家族の協力が得られない場合でも、本人の意向を確認して、職員がその人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。		